

第一講 (用言)

練習問題

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

信濃(注1)の国に更級さらしなといふ所に、男(例)住みけり。若き時に、親は死にければ、をばなむ親のごとくに、若くより添ひてあるに、この妻めの心、憂きことおほくて、この姑(注2)の、老aいかがりて居bたるを、つねに憎みつつ、男にも、このをばの御心のさがなく悪しきことを言ひ聞かせければ、昔のごとくにもあらず、おろかなることおほく、このをばのために、なりゆきけり。このをば、いといたう老いて、一二重ふたへにて居たり。これをなほ、この嫁、ところせがりて、今まで死ぬことと思ひて、よdからぬことを言ひつつ、「もていまして、深き山に(例)捨てたうびてよ」とのみ責めければ、責められわびて、さ1してむと思ひなりぬ。月のいとあかき夜、「(注3)お嬢ども、いざたまへ2。寺に尊たふときわざすなる、見せたてまつらむ」と言ひければ、かぎりなく喜びて負おれにけり。高き山のふもとに住みければ、その山にはるばると入りて、高き山の峰の、下おり来べくもあらぬに、置きて逃げて来ぬe。「やや」と言へど、い3らへもせで、逃げて家に来て思ひ

〔出典〕
『大和物語』

〔重要語句〕

- 憂し
- 居る
- さがなし
- おろかなり
- いと
- いたし
- なほ
- ところせがる
- わぶ
- さ
- あかし
- いざたまへ
- 見す
- たてまつる

をるに、言ひ腹立てける折は、腹立ちてかくしつれど、年ごろ親のごと養ひつつあひ添ひにければ、いと悲しくおぼえけり。この山の上より、月もいとかぎりなくあかく出でたるをながめて、夜一夜、寝も寝られず、悲しうおぼえければ、かく詠みたりける。

わが心なぐさめかねつ更級やをばすて山に照る月を見て

私の心はどうしても慰めることができない。更級のおはすて山に（明るく）照る月を見ていると。

と詠みてなむ、⁴また行きて迎へもて来にける。それよりのちなむ、をばすて山と言ひける。

（『大和物語』）

（注） 1 信濃の国——現在の長野県。

2 姑——配偶者の母親のこと。ここは、「をば」を指す。

3 姫ども——「ども」は親しさを示す接尾語。

問一 傍線部 a～e の用言について、〔例〕にならって文法的に説明せよ。

〔例〕 マ行四段活用動詞「住む」の連用形

e	d	c	b	a

○いらへ

○をり（居り）

○かく

○年ごろ

○おほゆ

○ながむ

○夜一夜

○寝も寝

○くかぬ

〔古典常識〕

○信濃

○をばすて山